

温故創新 Vol.1

豊中らしさを創る

編集・発行／豊中から日本を動かす会

<http://matsuoka-akimichi.net>

office@matsuoka-akimichi.net

【温故創新】温故知新の進化形で造語。

去年、豊中市は七十歳の誕生日を迎えました。大阪府下で市制施行四番目の豊中は、高校野球発祥の地としても知られ、全国初のニュータウンを要する日本有数の住宅都市です。定年後に住みたい町として、全国六位（日経新聞平成十八年八月十五日）に選ばれるほどです。

全国から注目を受けてきた「生活の利便性が高く、豊かな自然をもつ」豊中。しかし、豊中市も少子高齢化によって、人口や世代構成が大きく変化しつつあります。社会の変化をとめることはできませんが、社会の変化にあわせた街づくりを進めていかなくてはいけません。

温故知新は、「過去の事実を研究して、新しいことを知る」という四字熟語。しかし、社会が変化していくなか、私たちは知るだけでなく、行動しなくてはなりません。その進歩の意味をこめて「温故創新」を合言葉に、この街のよいところを守り、将来に活かしていきます。そして、社会の変化に合わせて、新しいものを創っていききたいと思います。

これまで、社会のことに関心のなかった方、関心があっても行動されなかった

松岡あきみちと

さあ、行こか。

自治会やこども会がなくなったり、活動が縮小されつつある現在、人と人とのつながりが薄れていっています。そうして、朝のラジオ体操や夏の盆踊りの規模が小さくなったり、なくなってしまう。人のつながりがなくなること、「地域の目」が働かなくなり、いじめ、孤独死などが問題に

なっています。学校の門は閉じられ、マンションはオートロック、安全を代償にして冷たい社会になりつつあります。すべては一人一人が動かないから、悪循環になっているのではないのでしょうか。社会に温かさを取り戻すため、今日から一緒に動きましょうよ。

低くて当たり前化しつつある投票率



若者の政治離れ
関心がないわけじゃない!
託せる人がいないだけ!!

若年候補者の皆無
現職の豊中市議の
平均年齢は 57 歳

この 19 万人 (若者や
利害関係のない人々)
の多くが選挙に足を運ぶ
ことで、クリーンな
(一部に偏らない) 政治
が実現できます。

全国から注目される豊中市を築いてきてくださった方々、ありがとうございました m(_)_m これからはもっと多くの人と一緒に豊中を創っていきましょう。

老若男女みんなで力をあわせれば、もっと住みよい豊中になるはず。高齢者にやさしい街、子育てしやすい街、若者が活躍できる街、そんな豊中を創いましょう。

若い視点で新しい豊中市政を創造します。

松岡あきみち (26才) 豊中市出身

- ・ しんでん幼稚園→南丘小学校→第九中学校→北野高校→同志社大学法学部政治学科。小、中、高校で生徒会長、豊中市中学生シンポジウム実行委員長を務める。
- ・ 池田市長、北摂の国会議員、地方議員のもとで政治の現場を学んだ後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務める。近隣の市政について学び、条例改正にも携わる。
- ・ JAバンク大阪の職員として地域経済、消費生活について学ぶ。休日は、NPO活動の取り組みや豊中ラグビースクールコーチとして過ごす。18 年末に退職して、政治の道を志す。



とよなか創政記

「大人と子どもの挨拶」

松岡あきみち

十年一昔とはよく言ったものです。

私たちが子どもだった頃、学校の先生に「校内で大人の人を見かけたら、ちゃんと挨拶しましょうね」とよく言われたものです。恥ずかしがり屋だった私は、それが苦手でありませんでした。知らないおばさんに「こ、こんにちは」とはじめて挨拶した時、おばさんが笑顔で「こんにちはは、挨拶できてえらいね」と声をかけてくれたことを今でも忘れることができません。

大人になった現在、母校を訪ねてみると、校門は閉まっていました。付属池田小学校事件があった以来、大人は学校に入りにくくなりました。先生も「不審な人がいたら、逃げなさい」と言われるそうです。残念ながら、私の姿を見て挨拶してくれた生徒は一人だけでした。今の子ども達は、挨拶する習慣をどこで身につけるのでしょうか。保護者ですら校内に入りにくくなり、学校は心理的に遠い存在になりました。高校生が「後輩の部活を見に行こうと思っただけ、門が閉まっているから、行くのやめてん。だって、いちいち手続きするのとか、めんどくさいし。」と話してくれました。在校生にとってみれば、先輩のやさしさに触れる機会を失ってしまったので、残念なことです。

子ども達の安全のために学校の門を開けることはできません。しかし、門が閉じていることで、大切なもの失われつつあるのも事実です。

私たちが子どもだった頃、携帯電話はありませんでした。友達と遊ぶ約束をするには家に電話をかけて、(だいたいお母さんが電話に出るので)とりあえず受話口で友達のお母さんに挨拶をしなければなりません。 「〇〇と申しますが、××くんいらつしやいますか」という大人に対する言葉づかいを、手汗をかきながら使ったものです。

大人になった現在、小学生でも携帯電話をもっています。友人と直接つながるので、「俺やで、ひま？」と会話が始まります。子どもの監視のために携帯を持たせていても、子どもは自分の都合が悪い時、親からの電話にはできません。子どもに電話を持たせることで、子どもの交友関係を知る機会を失い、「さっき電話のあった、××くんってどんな子？」というような親子の会話すら少なくなってきています。

もはや生活に欠かせない存在となった携帯電話をなくすことはできません。しかし、携帯電話によって大切なものが失われつつあるのも事実です。

いくら社会が変化しても、大切なものは変わりません。挨拶すること、言葉づかいや礼儀、敬重の念を子どもに伝えなければならぬのは、いつの時代も同じです。親が子どもの交友関係を把握するのも義務でしょう。た

とえ門が閉まっても、携帯電話が普及しても、大切なものを伝えるために、新しい工夫が必要です。このことに気づかなければ、気づいていても動かなければ、冷たい社会になり、住みにくい社会になってしまいうでしょう。

すべてを学校現場に委任することは、無責任だと思います。家庭、学校、地域が果たす教育の役割を見直して分担するべきです。一部の地域の方は、学校に入って行って花壇を作ったり、子ども達が農業体験できるように田んぼを作ってくださいました。土曜日など学校が休みのときは、お年寄りが伝統的な遊びを子ども達に教えてくださっています。もっと多くの人が動いてくれれば、そうした人たちの負担も軽減されます。

子ども会や自治会がなくなり、核家族化が進行して、子どもが「親以外の大人」に接するという大切な教育の機会は、気づかないうちに失われつつあります。気づいているのに、気づかないふりするわけにもいかないのです、そろそろ動きましょうか。

あなたのご意見・ご感想をお聞かせください。

office@matsuoka-akimichi.net



◇事務所ボランティアスタッフ大募集◇

「温故創新」の配布や、発送作業などをお手伝いいただけませんか？配布はご近所の数件でも数十件でも結構です。無理なく、気持ちよく、可能な範囲で応援をお願いいたします。

◇松岡あきみちの熱い思いを聞いていただける方、お声かけください◇

松岡あきみちがお伺いします、ご連絡ください。連絡先：06-7178-7785